

地域連携支援プログラム

報告書

令和 5 年度

(2023 年度)

東海学園大学

地域連携支援プログラム報告書（令和5年度）

目次

令和5年度実践プロジェクトから

- 【経営学部 13】「中日新聞「若者が読みたくなるニュース」の取材、執筆」(P1)
- 【経営学部 8】「みえ創業チャレンジスクールにおけるメンターの実施」(P3)
- 【人文学部 1】「学生による地域メディア活動みよしコミュニティニュースの取り組み」(P5)
- 【教育学部 2】「令和5年度 名古屋土曜学習プログラム「造形表現体験学習」」(P7)
- 【教育学部 10】「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知での医療救護ボランティア」(P8)
- 【スポーツ健康科学部 27】「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン 2024」(P9)
- 【スポーツ健康科学部 30, 31】「あいちトップアスリートアカデミー2023」(P10)
- 【健康栄養学部 10】「第19回あさひ健康フェスタ活動報告」(P11)

地域連携支援プログラム全活動概要一覧 (P13)

【 】内の数字はP13～○全活動概要一覧の各単位の表番号を示す

中日新聞「若者が読みたくなるニュース」の取材、執筆

1. 目的・概要

本活動は、学生たちが新聞社記者の活動を実践的に学びながら、マスメディアの社会的役割の学習から、興味関心をもとにチーム員同士が連携しながら企画、交渉、取材、執筆することを通じて、チームワークの重要性を身に着けることを目指した活動である。

新聞社は近年部数減が続いており、特に若年層の新聞離れが顕著であるため、若年層の関心度を高めることが経営課題である。実際、今回プロジェクトに参加した経営学部成田ゼミ 2 年生の 13 名に事前に新聞の接触状況を問うたところ、新聞閲覧習慣のある学生は 1 名だった。

本学においては、学生の企画力、遂行力、文章力を養うことにつながるだけでなく、マスメディアを通じて自分たちの意見や分析を社会に対して情報発信をし、フィードバックを得られるという貴重な経験を通じて、新聞の新しいあり方の研究を行うことができるため、両者で連携して本活動を行うことが決定し、編集のタイトルを「若者が読みたくなるニュース」とすることが決まった。

2023 年 4 月 27 日に中日新聞本社に置いて、中日新聞報道記者による「ジャーナリスト基礎講座」を開催し、本活動がスタートした。夏休み中も学生たちの活動は継続し、9 月 29 日の記事掲載を以て約 5 か月にわたるプロジェクトの完成をみた。なお、本活動は 2023 年 6 月に本学と中日新聞社とで取り交わした覚書に基づいて行われた。委託金はない。

2. 担当部局

教 員：経営学部経営学科 准教授 成田互

学 生：成田ゼミ 2 年生 (13 名)

連携先：中日新聞社 教育報道部

3. 所見・成果

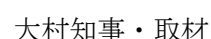
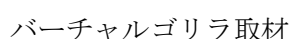
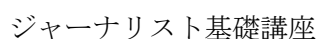
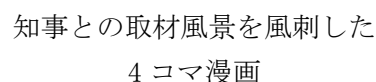
4 月 27 日の「ジャーナリスト基礎講座」では、報道における文章の書き方、編集企画の立て方、記事の書き方、など報道における基本的なマナーを学修した。その後、編集部において記事掲載までの作業工程や、校了後の印刷工程などの説明を受け、講座の修了とした。

学生たちがまず取り組んだのは、取材対象のリストアップである。「若者が読みたくなるニュース」で



若者が読みたくなるニュース（9 月 30 日掲載、中日新聞紙面）

学生たちの発案で、掲載紙面にアンケート用の QR コードをつけ、読者の反応を確認することもできた。90%以上が「新しい取り組みで面白かった」を選択しており、その自由記入欄に書かれた言葉も学生たちにとって一生忘れられない大きな学びをえることにつながった。



みえ創業チャレンジスクールにおけるメンターの実施

1. 目的・概要

本活動は三重県におけるスタートアップエコシステムを構築するための事業の一環として、近い時代に産業を担う県内の高校生に創業を身近に感じていただき、創業に対する関心を促し、将来の起業家の育成を目的として、四日市商業高等学校の生徒を対象に「みえ創業チャレンジスクール」が実施され、経営学部岡田ゼミ3年生の11名がこの活動にメンターとして参加した。本活動での目的は座学で得られた知識を高校生にアウトプットすることで知識の定着を目的とするものである。



本学での事前学習の様子

三重県立四日市商業高校2年生234名は「課題探究」の授業の一環で、「近鉄百貨店四日市店に酒商生の提案を届けよう」と題して商業を学ぶ高校生が近鉄百貨店四日市店に若者の来店を促すための改善提案をしている。この探究活動にメンターとして参加することになった学生は2人1組で6チームに分け、昨年度に高校生から出された提案、今年度高校生に出されるテーマを基にして想定問答集を作成し、当日に臨んだ。

当日のタイムスケジュールは以下の通りである。

1 時間目 講演（全クラス集合）

2・3 時間目 クラス別ワークショップ・コンテスト（各クラス）

（全体テーマ）

【リニューアルした近鉄百貨店四日市店に 酒商生の提案を届けよう】

（会計コース向けテーマ）近鉄百貨店の売上・利益を向上させよう！

（情報コース・情報マネジメントコース向けテーマ）

近鉄百貨店を「バズらせる」販売促進策を考えよう！

（流通コース向けテーマ）近鉄百貨店の商品の売れ行きを伸ばそう！

4 時間目 学年全体のコンテスト・表彰（体育館） 【45 分】

本学の学生は主に2・3 時間目に各クラスで実施されたワークショップ・コンテストでの進行、ファシリテーター役、高校生から出てくるアイデアに関してアドバイスや改善案の提示等、高校生との年代の近さを生かしてそれぞれのクラスの意見がより良くなるために自分たちが持っている知識を出していった。

2. 担当部局

教 員：経営学部経営学科 准教授 岡田 一範

学 生：経営学部経営学科 岡田ゼミ3年生（11名）

連携先：三重県立四日市商業高校、三重県雇用経済部産業イノベーション推進課、独立行政法人中小企業基盤整備機構、近鉄百貨店四日市店

3. 所見・成果

今までは授業において知識をインプットすることが多く、アウトプットすることが少なかった学生ではあるが今回の経験の中でアウトプットするためには、何倍もの知識をインプットしなければいけないことを感じていた。各教室でのメンターが終わり教室から出てきたときに一様に「緊張した」「疲れた」と清々しく、やり切った表情で話をしていたことが印象的である。

学生に想定問答集を作らせる際も、当日の高校生の意見に対する返答もクラス内のコンテストで選ばれるためには多くの人から共感を得られることが大事であること、高校生が意見を出しやすい雰囲気を作るために「否定をしないこと、より良くするためには何が必要か」という点を重点的に意識させた。

当日は高校生から思っていない意見が出て、瞬時に返答する大変さもあったり、自分が出したアドバイスを受けた高校生がその後、活発に意見交換している姿を見られたり、自分の考えを分かりやすく伝えることの難しさ、それを理解してもらえた時の嬉しさ等、短い時間ではあったが内容の濃い経験をさせることができた。担当頂いた高校の先生からも「これまでで一番良かった」という嬉しいお言葉を頂き、学生も自信につながり、大きな達成感を得ることができた。



体育館での全体講義



学生からの講評



各教室でのメンター



各教室でのメンター

学生による地域メディア活動

みよしコミュニティニュースの取り組み

1. 目的・概要

人文学部武市ゼミは、「みよし市と学校法人東海学園東海学園大学との連携協力に関する包括協定書」に基づき、みよし市からの依頼を受け、三好ヶ丘駅前の「カリヨンスタジオ」で学生によるラジオ生放送(毎週土曜日)を2013年より行っている。

学生は、みよし市内の行事・イベント等を事前にインタビュー取材し、大学内のスタジオで音源編集、スタジオトークの台本作成など準備を進め、放送当日はカリヨンスタジオにてパーソナリティと共にレポーターを務めている。

学生による放送は10年を超え、多くの住民が知る番組コーナーとして定着している。地域でも高く評価されており、みよし市とラジオ局も今後も長く継続していきたい意向である。地元自治体やメディア企業と連携した活動が、長期間に渡り継続しているのは、近隣大学の中で唯一である。

場 所：みよしヶ丘駅前カリヨンスタジオ

担当番組：毎週土曜日 エフエムとよた ワイド番組「もみあげラジオ（土 15:00～18:30）」内
「みよしコミュニティニュース（15:50～16:00）」

2. 担当部局

教 員：人文学部人文学科 准教授 武市久美

学 生：武市ゼミ 3、4年生 17名

連携先：みよし市 エフエムとよた

3. 所見・成果（MS ゴシック 12ポイント）

学生は、実際にメディアの現場にたずさわる貴重な体験をしてメディアに関する学びを深めた。音声メディアは映像など他の情報の助けがなく、情報を伝える際にどんな言葉を使うのか、より丁寧に考える必要がある。言語表現の奥深さを学んでいる。また、メディアの発信者になり、社会の一員として仕事をする中で、判断力やコミュニケーション力、責任感などを身に付けた。コミュニティFMラジオという地域に根差したメディアで情報発信活動に取り組む中で、地域の人々の日々の営みを知り、メディアの役割とは何かを考え、見直し、必要とされるメディアの在り方について考えた。

プロフェッショナルなメディア事業者や行政と異なる、学生らしい視点で物事を感じ取り、積極的に魅力を発信していくことが、地域貢献に繋がっていると考えている。この活動が始まって今年で10年を迎えたが、今後も「みよしコミュニティニュース」で、地域の魅力を伝え、地域を繋げるきっかけ作りをしたい。

資料1 学生の活動の様子



資料2 2023 年度上半期放送内容

OA日	内容	OA日	内容
4月1日	水上deお花見	7月1日	warau cafe
4月8日	三好池桜マラソン	7月8日	家読推進講座
4月15日	折り紙でモビール作り	7月15日	みよし市民茶会
4月22日	みよし市魅力再発見ガイドブック	7月22日	JOCジュニアオリンピック カヌースプリント競技大会
4月29日	カネヨシプレイス ミニオペラコンサート	8月5日	石川家住宅なつまつり
5月6日	スプリングスプリントカヌー競技大会	8月12日	三好池まつり
5月13日	カネヨシプレイスフェスタ	8月19日	昆虫展 クワガタムシとチョウが大集合
5月27日	みよし市消防操法大会	8月26日	三好大提灯まつり
6月3日	春の文化展	9月2日	サンライズ図書館まつり
6月10日	ソフトボール大会	9月9日	ふるさと庭園コンサート「月見のゆうべ」
6月17日	みよし市安全まちづくり推進大会及びみよし市環境美化推進大会	9月16日	平和を紡ぐつどい
		9月23日	野菜作り講習会
6月24日	少年の主張 みよし大会	9月30日	レクリエーションフェスタ2023

資料3 ラジオ局ホームページの番組紹介

もとかズと美由が土曜の昼をアゲアゲに~モミアゲラジオ~
土曜日 15:00 ~ 18:05(三好丘駅前のカリヨンハウス内特設スタジオからの公開生放送)

お笑いコンビ(?)もとかズ&美由がお届けするバラエティ番組。
美由の絶妙なボケと、もとかズの強烈なツッコミの奏でるハーモニーに、あなたはチャンネルを替えられなくなるハズ。土曜のお昼は三好丘のカリヨンスタジオでこの番組と一緒に盛り上がりましょう!

パーソナリティー
もとかズ

パーソナリティー
美由

みよしコミュニティニュース 土曜日 15:50~16:00

地元、東海学園大学との協働で、学生が市内各地に出掛けて取材をしてきたイベントを学生目線でお伝えします。

パーソナリティー
もとかズ

パーソナリティー
美由

パーソナリティー
東海学園大学
武市ゼミの学生

エフエムとよた <https://www.loveat.co.jp/program/weekend/> (20240509 閲覧)

令和5年度 名古屋土曜学習プログラム「造形表現体験学習」

1. 目的・概要

名古屋市教育委員会主催の「名古屋土曜学習プログラム」は、小学生を対象とした教育活動推進事業であり、体験型の課外学習講座の運営に、大学・地域・保護者・外部人材・民間事業等が協力し、子どもたちにとって豊かで有意義な土曜日を実現していくことを目的としている。

名東区の極楽小学校にて9月30日に実施した「造形表現体験学習」では、小島ゼミ生と小学生で、自然素材である「枝」に様々なひもを巻きつけ立体作品を制作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通し、アートという表現に生まれかわることを体験し、共有した。学生たちにとっても造形活動を通し積極的に子どもとかかわりながら、日頃のゼミでの学びを活かすことができる貴重な実践活動である。小学生の参加人数は27名。

2. 担当部局

教 員：教育学部教育学科 教授 小島 雅生

学 生：小島ゼミ E421 生 5名

連携先：名古屋市教育委員会



3. 所見・成果

自然素材である「枝」に様々なひもを巻きつけ立体作品を制作する活動は、身の周りにある自然素材と出会い、面白い形や手触りを感じながら、改めて自分の身の周りの風景や日常の中にある世界の美しさや素晴らしさに気づくことができるものである。それらの感動を、造形活動を通しお互いに共有するために何人かでグループを組み、そのグループで共同制作を実施した。小学生はもちろん、大学生も意欲的に主体的に活動に取り組むことができた。活動時間に限りがあるため、「もっと活動したい」という参加者の気持ちに応えることが困難であった。しかし、限られた活動の中でも、造形活動の本質に触れることにより、新たな視点や考えが生まれ、心から造形活動を楽しむことができた経験は、小学生とともに、大学生にとって有意義な実践活動の場となった。



マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知での医療救護ボランティア

1. 目的・概要

マラソン大会では、心停止、熱中症、脱水、転倒等の救急事案が発生した際、迅速に場所を特定し、医師、看護師などの医療スタッフを出動させ、適切な救命・救急処置をすることが重要である。ランナーの完走を補助し、安心安全な大会運営の実践を学ぶことを目的に、本学では2016年より養護教諭専攻の学生を中心にメディカルサポーターとして毎年医療救護活動に参加している。

大会当日の主な活動内容は、全17カ所ある救護所での受付や電話対応等の運営補助、コールドスプレーステーションの運営である。医療統括本部では、救急事案発生場所の特定、各班での電話対応や記録、救急搬送先の病院への荷物搬送等も担当した。



2. 担当部局

教員：教育学部教育学科 教授 石田妙美

学生：6学部から101名

連携先：マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知実行委員会事務局

3. 所見・成果

2024年3月10日に開催されたマラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2024の総出走者数は25,060人であり、フルマラソンである名古屋ウィメンズマラソンの出走者数は15,421人であった。本学からは6学部から101名の学生がメディカルサポーターとして参加し、活躍した。

傷病者発生場所を素早く正確に特定するため、医療スタッフはブロック図（マラソンコース沿道の目標物等が記載されている地図）を利用する。毎年石田ゼミを中心とした養護教諭専攻の学生がマラソンコースを実際に歩いて目標物を調査しブロック図を作成するとともに、その情報をExcelに入力して位置情報システムの更新も行っている。また、救急救命士らとともに医療統括本部への入電内容から救急事案発生場所を特定する事前練習も実施している。今年は事案発生場所の検索担当を増員し、事前練習の回数も2回から3回に増やしたこともあり、昨年よりも早く位置を特定し医療スタッフを迅速に出動させることができた。コールドスプレーステーションや救護所では、ランナーの症状の変化や医療スタッフの応急処置を間近に観察することができ、学生にとって有意義な活動となった。



名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン 2024

1. 目的・概要

2024年3月10日（日）、名古屋ウィメンズホイールチェアマラソンが開催され、スポーツ健康科学部を中心に経営学部、教育学部を含む17名の学生が運営及びエスコートスタッフとして活動した。学生スタッフは、大会前に講義と実技を交えた事前研修会（大会の歴史、当日の活動内容、車椅子の使い方等）を受講し、当日に備える。当日はゴール会場の設営、ゴールした選手の誘導、競技用車椅子（レーサー）から生活用車椅子への乗換補助、フィニッシュテープなどを担当した。

本活動は、スポーツイベントの運営や選手サポートという活動を通して、「する」だけではない「支える」というスポーツの価値を体験的に学ぶことを目的にしている。また、躍動する選手たちのパフォーマンスを目にすることで、新たな身体観や人の可能性を体感するとともに、イベント運営を実践的に学ぶ貴重な機会として、第1回大会から現在まで継続的に学生を派遣している。

2. 担当部局

教 員：スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 准教授 木村華織

学 生：スポーツ健康科学部 15名、経営学部 1名、教育学部 1名

連携先：愛知県、マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知 実行委員会

3. 所見・成果

スポーツ健康科学部では、名古屋ウィメンズホイールチェアマラソンがスタートした2014年から2024年まで11年間に渡り大会をサポートしてきた。ここ数年は、毎年参加してくれるリピーター学生や友人から話を聞いて参加を希望する他学部の学生も増えつつあり、学年や学部を越えて学生たちが共に活動する機会になっている。

ホイールチェアマラソンのスタッフを希望する学生の中には、スポーツイベントの運営やイベントに関わる愛知県職員、警察、メディア関係者の仕事に興味をもつ学生も少なくない。スタッフとしての体験が、学生たちの視野を広げ、多くの人と出会う機会になるなど、本活動は多様性や共生について理解する貴重な学びの場になっている。今後も学年や学部を越えて、多くの学生に参加の機会を提供したい。



名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン当日の活動風景

あいちトップアスリートアカデミー2023

1. 目的・概要

あいちトップアスリートアカデミー（以下「アカデミー」とする）は、2026年愛知県にて開催されるアジア競技大会やオリンピックなどの国際大会で活躍できる地元選手の発掘・育成を目的に2019年度からスタートした愛知県の事業である。愛知県との連携協定に基づき、本学スポーツ健康科学部の黒須雅弘准教授が当初より「スポーツ教養プログラム／身体能力プログラム」の講師を務めている。2023年度は計2回のプログラムが行われ、黒須准教授及びスポーツ健康科学部生（陸上競技部）7名がアカデミー生の指導にあたった。

○9月23日（土）18:25-20:30、ユース及びジュニア選手60名、黒須准教授・学生3名

○10月14日（土）18:25-20:30、キッズ選手対象50名、黒須准教授・学生他4名

ウォーミングアップでは、ボールを使つてのジャグリングや大きさが異なる2つのボールを使つてのパス&スピンなど、複数の異なる動作を同時に行う運動遊びを交えたトレーニングを実施した。次に、身体リテラシーを養うためのコーディネーションドリル、様々なパターンのスプリントドリルやジャンプドリルを行った。自らの身体を巧みに操つことの難しさと面白さ、その両面を感じることでできるプログラムが、対象に応じてその難易度を変えながら展開された。

2. 担当部局

教員：スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 准教授 黒須雅弘

学生：スポーツ健康科学部7名（陸上競技部）、アカデミー事務局補助として1名（陸上競技部）

連携先：愛知県

3. 所見・成果

指導補助者として参加したスポーツ健康科学部の学生たちは、アカデミー生に手本をみせたり声を掛けたり、普段の授業やクラブ活動で培った知識や技術を生かして積極的に指導していた。50名以上の小中学生を対象に指導する経験は大学の授業ではできないことであり、本活動は学生にとっても貴重な実践活動の機会といえる。はじめは緊張気味だった学生たちが、時間を重ねるごとに堂々とした姿に変化していくことも非常に頼もしく感じた。自らの学びを地域の子どもたちに伝えることや未来のトップアスリートの育成に関わっていくことの意義は大きい。今後も地域への貢献と学生指導・育成に力を尽くしていきたい。



あいちトップアスリートアカデミーで「身体能力プログラム」の指導にあたる黒須准教授と学生

第 19 回あさひ健康フェスタ活動報告

1. 目的・概要

尾張旭市は、平成 16 年に「健康は市民すべての共通の願いである」という考え方にに基づき、「健康都市宣言」を行い様々な活動を通して市民の健康づくりに取り組まれている。

「尾張旭市健康の日」を 4 月 29 日と定め、市民の健康づくりの啓蒙活動の一環としてあさひ健康フェスタが行われ、東海学園大学教員、学生ボランティアも積極的に参加している。この活動で、行政が取り組んでいる健康づくり事業に参画し市民の健康づくりの施策を理解し地域での管理栄養士の役割、多職種との連携を学び市民の健康づくりの一助となることを目的に実施した。

第 19 回あさひ健康フェスタ

令和 5 年 4 月 29 日(土)、尾張旭市主催の第 19 回あさひ健康フェスタに教員・助手 4 名、学生ボランティア 11 名で参加した。4 月 29 日は、尾張旭市の「尾張旭市健康の日」であり、市内 4 会場(スカイワードあさひ、グリーンシティケーブルテレビ、イトーヨーカード尾張旭店、尾張旭市文化会館)で様々な健康づくりに関するイベントが開催されていた。東海学園大学では、尾張旭市城山公園スカイワードあさひにて、とうがく健康測定やウォーキングを兼ねたスタンプラリーの景品交換の活動を行った。

とうがく健康測定では、骨密度測定、足指筋力測定およびヘモグロビン測定を 162 名の参加者に実施した。また、ウォーキングを兼ねたスタンプラリーでは、とうがくカレーおよびイチビキ共同開発製品を参加記念品として提供し、約 700 名の方に配布した。

2. 担当部局

教 員：健康栄養学部管理栄養学科 教授 西田淑男 徳永佐枝子
助手 竹内万莉乃、御給涼香

学 生：4 年 7 名、1 年 4 名 合計 11 名

連携先：尾張旭市企画部

3. 所見・成果

4 年生は、各種の測定を実施し結果の見方や今後留意すべき食生活上のポイントを説明するなど大学で修得した知識を実際の測定を通して栄養食事指導を行えたことは体験型の学習として有意義であった。また、4 年生にとっても就職した場合の管理栄養士の業務を体験し知識の再確認が出来た。1 年生は、クイズスタンプラリーの景品提供を通して地域住民の方と会話、初対面の方への対応の仕方や言葉遣いなど社会人として身につけるべき礼儀、マナーを学ぶ機会となった。

また、とうがく健康測定、クイズスタンプラリーの提供景品を通して東海学園大学の名を地域住民の方に周知できた。



教員・助手・4年ボランティア学生



教員・助手・1年ボランティア学生



とうがく健康測定の様子



尾張旭市市長と学生

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加者	種別	活動
1	かみいしづ移住体験ツアー2024	運営スタッフとして参加。 具体的には、2チームに分かれ、開会式の司会、空き家見学をはじめとする各種イベントの準備・案内、先輩移住者との交流会での全体司会およびグループディスカッションのコーディネーター、ツアーを通しての記録写真の撮影などを行った。	3月2日～3月3日	大垣市上石津地域	教員1名 学生6名	1. 自治体との連携	授業外
2	SDGs出前授業	みよし市立小学校2校の4年生に対して、SDGsの普及・啓発を目的とした出前講座（講義とワークショップ）を実施し、小学生のSDGsへの理解を深めた。出前授業の実施にあたっては、学生自身が講義やワークショップの内容を検討することで、自らのSDGsについての理解を深めることもできた。	9月（2回実施）	みよし市立緑丘小学校 みよし市立三好丘小学校	教員1名 学生12名	1. 自治体との連携	授業外
3	SDGsフォト・ムービーコンテスト	SDGs普及・啓発を目的としてフォト・ムービーコンテストを開催した。このコンテストには約200点の応募があり、それらの中から19点が優秀作品として表彰された。 東海学園大学学長賞の受賞者には、伊藤副学長から賞状と副賞が授与された。	4月～2月	みよし市役所	教員1名 学生12名	1. 自治体との連携	授業外
4	イオン三好店でのワークショップ	みよし市企画政策課と連携して、SDGsの普及・啓発を目的としたワークショップ（オリジナルエコバッグづくり、みつろうラップづくり、ペットボトルキャップを用いたゲーム、ゴミ分別ゲーム）を開催した。約100名の方から参加してもらうことができ、多くの市民にSDGsについて理解してもらうことができた。	2月17日	イオン三好アイ・モール	教員1名 学生6名	1. 自治体との連携	授業外
5	販売士受験啓活動	東海販売士協会と連携し、販売士受験者の増加を目的にポスターを作成。ポートメッセなごやで行われた異業種交流会にてポスターの展示。	11月8日～10日	ポートメッセなごや	教員1名 学生12名	2. 企業・各種団体との連携	授業
6	企業連携による職場改善提案活動	ハマキョウレックスが手掛けるロジスティクス事業、3PL事業、並びに職場環境の改善について、現状のビジネスモデルの分析、職場環境について企業側と整理し、学生目線で考える働きやすい職場、入社したい職場に対するプランを検討する。検討したプランを経営者、採用担当者、関係者へ向けて提案・発表する。	10月～11月	株式会社ハマキョウレックス・みよし第一センター、三好キャンパス	教員1名 学生11名	2. 企業・各種団体との連携	授業
7	豊田市「百年草」活性化のための連携活動	豊田市にある複合施設の百年草を舞台に、宿泊客に向けたイベントを学生が企画・運営し、百年草の集客や収益アップに貢献することを目指した。	4月～8月	豊田市「百年草」、三好キャンパス	教員2名 学生12名	1. 自治体との連携 2. 企業・各種団体との連携	授業
8	三重県立四日市商業高校総合学習の時間でのメンター活動	は三重県におけるスタートアップエコシステムを構築するための事業の一環として、近い時代に産業を担う県内の高校生に創業を身近に感じていただき、創業に対する関心を促し、将来の起業家の育成を目的として、四日市商業高等学校の生徒を対象に「みえ創業チャレンジスクール」が実施され、経営学部岡田ゼミ3年生の11名がこの活動にメンターとして参加した。	12月	三重県立四日市商業高等学校	教員1名 学生11名	1. 自治体との連携 2. 企業・各種団体との連携	授業
9	学生ラジオ番組「バズっとタイム♪」「コーヒータイトム♪」の企画、制作	FMラジオ番組「カリブ文学者山本伸のマンデーナイトグループ」（CTY-FM／毎週月曜夜7時～8時の生放送／提供：東海学園大学）のコーナー企画として1ヶ月に2回放送。毎回テーマを設けて、大学生目線で2組2人ずつのパーソナリティが自由に対話し、それをより濃密に編集、バックに音楽をかぶせてひとつのコーナー作品として仕上げる。	企画会議、収録は月に一度。2本分のタメ録り。概数で12本。	三好キャンパス(山本伸研究室特設スタジオ)	学生4名 教員1名	2. 企業・各種団体との連携	授業外
10	高齢者施設におけるレクリエーションの実施	地域の高齢者施設に訪問し、お年寄りの話を聞いたり、レクリエーションを行った。レクリエーションでは、学生が運営に参加し、利用者と共にふれあい、社会福祉に対する理解を深めた。	5月17日、11月1日	株式会社SHINWA（高齢者デイサービス「笑みハビリティサービス」）	教員1名 学生20名	4. その他	授業
11	高齢者施設における回想法ワークショップ	地域の高齢者施設を訪問し、回想法を用いたワークショップを展開した。ワークショップでは、利用者の知る地域の歴史を振り返り、学びあった。	6月（2回実施）	合資会社エンジョイハウス にこにこ	教員1名 学生20名	4. その他	授業

12	聴覚障害児施設でのレクリエーションの実施	聴覚障害児のデイサービス施設に学生が訪問し、レクリエーションを行った。学生を中心として、実践的にレクリエーションを展開することで、社会福祉に対する理解を深めた。	11月（2回実施）	特定NPO法人つくし（放課後等デイサービス・児童発達支援「つくしっこ」）	教員1名 学生20名	4. その他	授業
13	若者が読みたいなるニュース	株式会社中日新聞社にて、学生が記事の取材、執筆に関する基礎講座を受講したうえで、チームにわかれ、希望する取材対象者に取材依頼し、取材を実践した。取材内容をもとに学生が中日新聞15段×2ページ分の記事を執筆し、掲載された。	4月～9月	株式会社中日新聞社ほか	教員1名 学生13名	2. 企業・各種団体との連携	授業
14	犯罪抑止キャンペーン	社会問題である闇バイトの危険性を広めるキャンペーンとして、学生がコピーライトを作成した。作成された作品は、愛知県警察が審査し、キャンペーンに採用され、グッズにも活用された。また、徳重駅において成人式参加者や商業施設利用者を対象としてグッズ配布を含むキャンペーンを行った。	11月～1月	愛知県緑警察署、名古屋市営地下鉄・徳重駅ほか	教員1名 学生12名	2. 企業・各種団体との連携	授業
15	NEXCO中日本とのInstagram「とうがく調査隊」運用	NEXCO中日本（中日本高速道路株式会社）からのマーケティング課題を踏まえて、学生がコミュニケーション施策を提案した。高速道路にまつわる様々な情報や、沿線情報を学生が調査、取材、投稿するアカウント「とうがく調査隊」を運用した。学生が企業のブランディング業務に携わることで実際のマーケティング活動を体験する機会となった。	4月～3月	NEXCO中日本事業エリア内各所	教員1名 学生13名	2. 企業・各種団体との連携	授業
16	大学内1dayインターンシップ	キャンパス内で株式会社アルペンの25卒1dayインターンシップを開催した。学内で行うことで学生にとって初めてでも参加しやすい就活イベントとなった。	11月18日	三好キャンパス	教員1名 学生40名	2. 企業・各種団体との連携	授業外
17	広告キャッチコピーコンテスト	オープンキャンパスにおけるイベントとして株式会社スパイスの協力のもと、広告キャッチコピーコンテスト「あなたもコピーライター！ ～商品をヒットさせよう～」を実施した。参加者が同社商品のキャッチコピーを考案し、応募する形をとった。最優秀賞では実際の当該広告でキャッチコピーとして採用されたほか、入賞者にも賞品が授与された。	6月11日、8月6日	三好キャンパス	教員1名 学生3名	2. 企業・各種団体との連携	授業外
18	ゴンチャ マーケティング戦略立案	株式会社ゴンチャ ジャパンの抱えるマーケティング課題を同社社長からオリエンテーションを受け、学生がチーム別に課題解決のためのマーケティング戦略を立案した。その後、同社社長に対してプレゼンテーションを行い、講評をいただいた。	4月～6月	三好キャンパス	教員1名 学生11名	2. 企業・各種団体との連携	授業

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参 加 者 学 内	種 別	活 動
1	【みよし市との包括協定】 コミュニティFM「みよしコミュニティ ニュース」	エフエムとよたの番組「モミアゲラジオ」（毎週土曜日 午後3:00～6:00放送）内で「みよしコミュニティ ニュース」（放送時間午後3:50～4:00）の コーナーを武市ゼミの3,4年生が担当。学生が市内 イベントをインタビュー取材し、レポーターとして地域 情報を発信する。2013年11月末より。	4月～3月（毎週土曜日）	みよしヶ丘駅前カリ ヨンハウスカリヨンス タジオ	学生3名	1	授業外

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加者 学内者	種別	活動
1	2022年度岐阜県関市国際交流協会事業 外国につながる中学生のための教科学習支援教室「わかくさ教室」における、学生ボランティアを組織した学習支援活動	2023年度も前年度同様に年間30回(1人の生徒あたりの回数)のオンライン教室を計画し、関市在住の日本語を母語としない中学生の希望者(10人前後)に対して、週1回または2回、各1時間程度のオンラインによる教科学習支援行なった。日本語初期指導が必要な生徒もいれば、受験学力をつける必要がある生徒もいるなど生徒の学習ニーズが多様であることから、1人の生徒に対して複数の支援者が関わる必要がある。そこで、サポーター(教育職経験のある大人)の補助者として学生ボランティアを募集した。学生自身が生徒との人間関係をつくることで学習支援に慣れてきた時点で、学生1人または2人ペアに任せた学習支援に切り替えた。学生の希望日時や学習支援の具体に関する不安なども十分考慮し、横山真理が本学コーディネーターとしての役割をもってボランティア学生を指導した。関市国際交流協会の事業として位置付けられており、関市市民協働課の責任のもとでzoomの有料契約によるオンライン教室の開設が成立している。したがって、zoom利用に関する学生の費用負担はなく、学習支援に利用できるように、学生に対してホワイトボードや教材プリントのデータが入ったUSBメモリを貸し出した。	1人の生徒に対して年間30回(火曜日・水曜日・金曜日の夜に開催)	zoomによるオンライン教室	教員1名 学生11名	1. 岐阜県関市市民協働課・関市国際交流協会	授業外
2	令和5年度 名古屋土曜学習プログラム「造形表現体験学習」	自然素材である「枝」に、様々なひもを巻きつけ立体作品を制作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通し、アートという表現に生まれかわることを体験した。小学生の参加人数は27名。	2023年9月30日	極楽小学校	5名	1. 名古屋市教育委員会主催	授業外(ゼミ活動) 講師: 小島雅生
3	愛知淑徳中学・高等学校定期健康診断ボランティア	歯科検診は歯式の記載、内科検診は生徒たちの誘導。	4月11日	愛知淑徳中学・高等学校	学生17名	5	授業外
4	名古屋市立小中高校での健康診断補助	各種測定検査、歯科検診、耳鼻科検診などの補助	5月12日、18日、19日、25日 6月1日	・平針小学校 ・弥富小学校 ・白沢小学校 ・下志段味小学校 ・西陵高等学校	各日、学生2名 学生1名 学生1名 学生1名 学生2名	5	授業外
			6月7日	・吉根小学校	学生1名		
			6月8日	・弥富小学校 ・白沢小学校 ・下志段味小学校	学生1名 学生1名 学生1名		
			6月15日	・下志段味小学校	学生1名		
			6月22日	・弥富小学校	学生1名		
			10月18日	・田代小学校	学生4名		
			10月19日	・赤星小学校 ・大森小学校	学生2名 学生1名		
			10月23日	・小幡北小学校	学生2名		
			10月26日	・平針南小学校	学生2名		
			10月27日	・しまだ小学校	学生3名		
6	みよし市立小中学校での健康診断補助	各種測定検査、歯科検診、耳鼻科検診などの補助	4月14日 4月21日 4月28日 10月11日	・三好丘小学校 ・北部小学校 ・三好丘小学校 ・三好丘中学校 ・三吉小学校 ・三好丘小学校 ・南中学校 ・黒笹小学校 ・三好丘小学校	学生2名 学生2名 学生2名 学生2名 学生1名 学生2名 学生2名 学生1名 学生4名	1. みよし市	授業外
7	瀬戸市立小中学校での健康診断補助	各種測定検査、歯科検診、耳鼻科検診などの補助	5月18日	幡山中学校	学生1名	5	授業外

8	第55回おかざきマラソン開催時の救護活動	第55回おかざきマラソン大会当日の救護活動 AED、救護バックを持参し定点で待機する定点隊 隊と、救護所、医療本部での救護活動の補助及び 救護所利用記録の入力をする。	2023年11月26日	岡崎公園とマラソン コース	学生24名 教員1名	2. 岡崎市スポーツ協会 と連携	授業外
9	第42回豊田マラソン開催時の救 護活動	第42回豊田マラソン大会当日の救護活動 AEDを背負って自転車で巡回するAED隊と、救護 所、医療本部での救護活動の補助及び救護所利 用記録の入力をする。	2023年12月10日（日）	とよたスタジアムとマ ラソンコース沿道	学生11名 教員1名	2. 豊田市スポーツ協会 と連携	授業外
10	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛 知2024, 大会当日の医療救 護サポート（メディカルサポ ーター）	救護所受付、救護所運営補助、コールドスプレース テーションの運営、医療統括本部のサポート等	2023年3月12日	名古屋ウィメンズマ ラソン、名古屋シ ティマラソンマラソン コース、沿道救護	学生110名 教員1名	2. マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2024マラソン 事務局と連携	授業外
11	乳幼児向け「東海学園大学保 育専攻の先生によるおはなし会」 のでの実践	天白図書館での乳幼児向けおはなし会に保育学 生が参加し、0～3歳未満児とその親を対象に、30 分のおはなし会を1日に2回×3日(計6回) 開催し た。(学生主体の活動であるが、学生が就職活動と 実践日が重なることもあり、活動タイトルが教員主体 のものとなった)	①2022年8月26日 ②2022年9月22日 ③2022年10月27日	天白図書館	各日教員1 名（木本） 学生3名×3 回計9名	1. 天白図書館	授業外
12	子育て支援会「東海学園大学 のお兄さんお姉さんと遊ぼう！」	天白児童館での子育て支援会を保育専攻木本ゼ ミで企画し、学生が参加して、未就園児とその保護 者向けのお楽しみ会を実施した。教員によるミニ子 育て講話と天白児童館職員による花の苗植えにも 参加した。	2023年10月27日 2024 年3月21日	天白児童館	各日教員1 名（木本） 学生7名×2 回計14名	1. 天白児童館	授業外
13	リトルマフェスタin名古屋（名 古屋国際会議場）	ステージイベントやハイハイレース、撮影会などのコン テンツをはじめ、子育てサポーター企業やママたちの ブース、ワークショップに育児セミナーなどのファミリー イベントにおけるサポート	①2023年11月2日 ②2023年11月3日	名古屋国際会議 場	①学生4名 ②教員1名 （木本）学 生9名	2. くれよんらんど	授業外
14	てんばく子育てフェア2023	天白区内の子育て支援団体が終結した子育てイベ ントの補助等	2023年9月28日	天白スポーツセンタ	教員1名 （木本）学 生12名	3. てんばく子育てネット ワーク	授業外
15	くれよん春祭り	大治町の子ども向けイベントにて、受付、各種あ そびのコーナー補助	2024年3月30日	大治スポーツセン ター	学生6名	2. くれよんらんど	授業外

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	者 加 参 内 学	別 種	動 活
1	名古屋市教育委員会「名古屋土曜学習プログラム」	名古屋市教育委員会が主催する、小学生を対象とした体験学習事業に従事。	6月3日（土） 11月11日（土）	6月3日：名古屋 市立砂田橋小学 校 11月11日：名古屋 市立伝馬小学 校	6月3日： 教員1名 学生12名 11月11日： 教員1名 学生16名	1. 自治体との連携	授業（ゼミ）の一環として
2	サッカークラブ「wyvern」のホームゲームイベントの企画運営	Jリーグ参入を目指す社会人サッカークラブ「wyvern」のホームゲームにおいて、スタジアムイベントの一環としてファン創造・地域愛着の醸成を目的とした企画を立案・実践した。	6月から9月（チームとの打合せ・企画準備など）	ウェーブスタジアム刈谷	教員1名 学生16名	2. 企業・各種団体との連携	授業（ゼミ）の一環として
3	みよし市ウォーキングサッカー交流会の運営補助	みよし市のSDGs推進パートナーである名古屋グランパス・スポーツ健康科学部（井澤ゼミ）の共催で開催されたウォーキングサッカーイベントの運営に従事。	11月26日（日）	旭グラウンド（みよし市）	教員1名 学生9名	1. 自治体との連携 2. 企業・各種団体との連携	授業（ゼミ）の一環として
4	筋力アップ教室 ～軽負荷筋トレ編～	初回（第1回）と最終回（第12回）は体力測定を実施し、ご自身の現在の体力レベルを確認してもらいながら実施する。第2～11回は、自体重やチューブを用いた筋力トレーニングを実施した。	4月29日～7月19日 毎週水曜日 10:50～11:50 （5月3日除く）	東海学園大学 アリーナ	教員1名 学生約20名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業および 授業外
5	黒笹保育園との運動遊び	年少・年中さんは黒笹保育園園庭にて、年長さんは大学ラグビー場にて、学生が主体となって内容を企画し、園児との運動遊びを実施した。	6月8日 6月9日 6月22日 11月20日	黒笹保育園園庭 東海学園大学 ラグビー場	教員1名 学生約20名	5. その他 共催 黒笹保育園父母の会	授業
6	筋力アップ継続教室 ～軽負荷筋トレ編～	上記の春学期の筋力アップ教室の卒業生を対象に、希望者の方には筋トレを継続できるよう週1回アリーナを貸出し、運動を継続した。教員や学生は不定期に指導などの支援した。	9月1日～3月31日	東海学園大学 アリーナ	教員1名 学生3名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業外
7	筋力アップ教室 ～マシン筋トレ編～	上記の春学期の筋力アップ教室の卒業生を対象に、希望者の方にはセミパーソナルトレーニング（3名以内）を実施した。参加学生は、春学期の教室運営に関わり、かつ、NSCA-CPTの資格取得者に限定した。学生トレーナーがトレーニング機器の基本的な使用方法などを参加者に指導した。	10月1日～3月31日	東海学園大学 5号館トレーニングジム	教員1名 学生1名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業外
8	筋力アップ継続教室 ～マシン筋トレ編～	上記のセミパーソナルトレーニングを受講した参加者の中から希望者の方には継続してトレーニングジムを利用できるようにし、運動を継続してもらった。	12月1日～3月31日	東海学園大学 5号館トレーニングジム	教員1名 学生1名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業外
9	第19回愛知県ティール大会	令和5年6月25・26日、至学館大学野球場および多目的グラウンドにて行われた愛知県ティール大会において、本学学生がメディカルサポートスタッフとして参加し、試合中に発生するけがなどに対する応急処置の支援を行った。具体的な活動として、本大会は暑熱環境下における実施となるため、大会前日に日よけのためのテントおよび救急処置用のブルの設置を行った。また大会当日は、6面に分かれたコートに学生スタッフが配置され、各コートで発生する傷病に対して指導教員とともに対処した。また、本大会で発生した傷病の事例を詳細に記録し、今後ティール大会を安全に実施するために必要となる研究データの収集も行った。	6月24日・25日・26日	至学館大学 野球場・多目的グラウンド	教員1名 学生10名	2. 企業・各種団体との連携	授業外
10	ニュースポーツフェスティバル2023 ティール体験	令和5年9月9日、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）にて行われたニュースポーツフェスティバル2023 ティール体験コーナーに、ボランティアスタッフとして参加した。ニュースポーツフェスティバルは、20種目のニュースポーツが無料で体験できる祭典であり、ティール体験コーナーでは、ティール台の上に乗せたボールをティール専用バットで打撃する体験をしてもらっている。今回参加した学生ボランティアスタッフは、これまでベースボール型スポーツを経験したことのない子供たちに対して打撃方法を指導することを主な業務とした。	9月9日	愛・地球博記念公園（モリコロパーク）	教員1名 学生3名	2. 企業・各種団体との連携	授業外

11	バンテリン東海クラシック子ども人ペアマッチ スナッグゴルフ大会	バンテリン東海クラシックが開催されるのに合わせて（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団が、会場内の練習場でスナッグゴルフ大会を開催している。この大会は親子ペアで参加し、交互に打ってスコアを競うというものである。当日は、36組72名の参加があった。本学学生は大会運営を依頼されており、愛知県教育・スポーツ振興財団の方と共に、受付担当は参加者の受付と用具の貸出を行い、コース担当はコース設営および各ホールでの参加者の誘導を行った。これまで経験したことのないスナッグゴルフという種目を知ることができ、またプロのゴルフ大会を見学したことで参加学生もスポーツ経験を積むことができた。	10月1日	三好カントリー倶楽部ドライブレレンジ（練習場）	教員1名 学生11名	1. 自治体との連携	授業外
12	大治町スポーツ少年団指導者講演会	スポーツ団員の技術の向上だけでなく、人間的成長を促せるような指導者育成（体罰の禁止等）に関する講演	4月30日	大治町スポーツセンター	教員1名	1. 自治体との連携	授業以外
13	大桑村ほこつ運動教室	長野県大桑村での運動指導を実施。月に1回の頻度で高齢者を対象に実施。スポーツ健康科学部教員及び学生が村に出向いて、教員による講話、木曽の大桑ほこつ体操、筋力トレーニング、ストレッチング、学生によるレクリエーションなどを行った。	12月22日・1月22日・2月29日・3月14日	大桑村公民館（須原地区館）	教員2名 学生2名	1. 自治体との連携	授業外
14	なごや健康カレッジ	65歳以上の名古屋市長住高齢者を対象とした運動教室。筋力トレーニングを中心とした運動指導に加え、健康栄養学部古橋先生及びゼミ生による栄養に関する講座なども実施。教室初回と最終回に体力測定を実施し、参加者に結果の解説を行う。運動指導では、ともい体操を毎回実施。	10月～12月（10回実施）	名古屋キャンパス体育館	教員4名 学生22名	1. 自治体との連携	授業外
15	みよしフレイル予防教室	みよし市との契約のもと、共同での教室実施。フレイルに該当する地域在住高齢者に理学療法士及び学生による運動指導、歯科衛生士による口腔ケア講座、栄養士による介護予防のための栄養指導に関する講座を実施。運動指導では、みよしよし体操を毎回実施。	・5月～1月（10回実施） ・5月から7月までは隔週で実施、10月及び1月にフォローアップ実施	三好キャンパス5号館アリーナ	教員1名 学生13名	1. 自治体との連携	授業外
16	松山市社会福祉協議会松山市ふれあい・いきいきサロン介護予防サロン	令和4年度に実施された松山市社会福祉協議会ふれあい・いきいきサロンの「してみる測定」の結果を社会福祉協議会地域支援課及び松山市市役所介護保険課職員を対象に説明を行った。また、結果を踏まえて今後の活動及び測定項目の見直しなどについての意見交換を行った。	2月26日	松山市社会福祉協議会本所	教員2名	1. 自治体との連携	授業外
17	みよし市フレイル予防サポーター養成講座 講師	みよし市主催のフレイルサポーターの養成を目的としたフレイルの理論と運動指導を内容とした講座を実施。みよし市役所では、地域のリーダーの方を対象に、おかよし交流センターでは一般高齢者を対象に実施。両講座とも運動指導では、みよしよし体操の紹介を行い、参加者にDVD及びリーフレットを配付。	6月21日及び1月19日	・みよし市役所 ・おかよし交流センター	教員1名	1. 自治体との連携	授業外
18	認知症カフェでの運動指導	みよし市内の認知症カフェにて参加者を対象に学生による筋力トレーニング指導、みよしよし体操の実演が行われた。その他、学生と参加者との交流を目的としたアイスブレイキングの時間が設けられた。	8月8日・18日・28日	・認知症カフェ「warau cafe（ワウカフェ）」	教員1名 学生5名	5. その他	授業外
19	松山市中島での運動指導及び体力測定	松山市離島に在住する男性高齢者22名に介護予防を目的とした運動指導及び体力測定を実施した。運動指導は、1度対面で伝えてからは、自宅で映像を観ながら行ってもらった内容である。	7月15日・9月16日	中島ふれあいセンター	教員1名 学生5名	5. その他	授業外
20	愛知池マラソン	大会参加および補助員として大会運営に参加	2024年2月18日	愛知池周回コース	教員1名 学生12名	1. 自治体との連携	授業外
21	みよし市立南部小学校での運動会運営補助	運動会当日の運営補助を中心に行った。用器具及びテントの準備・片付け、児童の誘導、玉入れでのカゴ担当やリレーのバトンパスの支援等を行った。	5月27日	南部小学校グラウンド	学生5名	1. 自治体との連携	授業外
22	みよし市立南部小学校での出張授業	運動会に向けたリレー指導を行った。教員1名と陸上競技部の学生3名で、低学年（1・2年生）への走り方指導及び5年生の全員リレーの指導を各1回ずつ行った。	5月18日・23日	南部小学校グラウンド	教員1名 学生3名	1. 自治体との連携	授業外
23	名古屋市中生涯学習センター公開講座「健康に目を向けて～日常生活で何ができるだろうか」「健康」って何だろう？～身近なことから広がる健康への気づき	名古屋市中生涯学習センターの連続講座第1回目：「健康」って何だろう？～身近なことから広がる健康への気づき、の講師を務めた。本講座は全5回の講座となっており、その第1回目を担当した。	8月24日	中生涯学習センター	教員1名	5. その他 名古屋市の依頼	授業外
24	みよし市立南部小学校でのマラソン大会運営補助	マラソン大会の伴走及び運営補助を行った。陸上競技部の学生を中心に5名の学生が参加し、全6レースの伴走を行うとともに、大会後の後片付け等を行った。	12月14日	南部小学校グラウンド	学生5名	1. 自治体との連携	授業外

25	第5回「みんな集まれ!!かけっこ教室」	小学生を対象とした「かけっこ教室」を三好ともいきスポーツクラブと本学部の共催により開催した。イベントでは運動することや体を動かすことの心地よさを感じてもらうことを第一に、走る・投げる・跳ぶに関わる種目を体験してもらった。教員2名、陸上競技部の学生10名及び卒業生4名が運営スタッフとして指導にあたった。参加者は46名であった。	11月25日	東海学園大学三好キャンパス第1グラウンド	教員2名 学生10名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業外
26	第6回「みんな集まれ!!かけっこ教室」	小学生を対象とした「かけっこ教室」を三好ともいきスポーツクラブと本学部の共催により開催した。雨天のため会場をアリーナに移して実施した。コーディネーショントレーニング、マット幅跳び、ジャベール投げを行った。これまでで最多の56名の参加となった。教員2名、学生14名、卒業生2名が運営スタッフとして指導にあたった。	2024年3月20日	東海学園大学三好キャンパス第1グラウンド	教員2名 学生14名	5. その他 共催 ともいきスポーツクラブ	授業外
27	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2024」	17名の学生が「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2024」のエスコートスタッフ及び運営スタッフとして活動した。当日は、出場選手の誘導・車椅子の乗換補助、レーサーの運搬、ゴールテープ、会場設営等を行った。学生たちは事前研修会の成果が発揮され、慌てることなく活動していた。選手に関わる以外にイベント運営に関わることでできる有用な機会であった。	2024年3月10日	ゴールエリア、妙音寺通り周辺	教員1名 学生17名	1. 自治体との連携	授業外
28	いわてスーパーキッズ発掘・育成事業スペシャルスクール「身体能力開発プログラム（ランニングスキル、アジリティ）」	いわてスーパーキッズ発掘・育成事業は、将来、世界で活躍するトップアスリートのとなる人材発掘・育成を目的とした事業である。これまで、冬季オリンピック金メタリストや日本代表アスリートを輩出した実績を残している。今回は、ランニングの動作習得を中心とした身体能力向上プログラムを実施した。受講者は、U12（12歳以下）62名、U15（15歳以下）53名で、2021年から本事業のアスリートとして参加している。	2024年1月8日（月） 3セッション構成	県立岩手大学	教員1名	1. 自治体との連携	授業外
29	いわてスーパーキッズ発掘・育成事業スペシャルスクール「身体能力開発プログラム（ランニングスキル、アジリティ）」	2024年1月のプログラムに運動強度、難易度をアップデートした内容で実施した。対象は、U15（15歳以下）53名であった。	2024年2月11日（日） 1セッション	県立岩手大学	教員1名	1. 自治体との連携	授業外
30	あいちトップアスリートアカデミー2023育成プログラム	あいちトップアスリートアカデミーは、2026年に愛知県で開催されるアジア競技大会やオリンピックなどの国際競技会で将来活躍できる地元アスリートの発掘・育成を目的とした事業である。今回は、ジュニアとユース年代（小学6年生～大学生年代）を対象に、ボールを用いたジャグリング、片脚運動によるアンバランスな状態での課題運動、ジャンプ、スプリントを中心にを行った。	2023年9月23日（土・祝）	日本ガイシスポーツプラザ	教員1名 学生3名	1. 自治体との連携	授業外
31	あいちトップアスリートアカデミー2023育成プログラム	2023年9月に行ったプログラムの運動強度と難易度を小学生年代に合った内容で実施した。特にキッズ（小学4・5年生）の発育状態にも配慮し、ストップ動作や方向転換、マルチタスクを含んだエクササイズを中心にを行った。	2023年10月14日（土）	名古屋市枇杷島スポーツセンター	教員1名 学生4名	1. 自治体との連携	授業外
32	公共オープンスペースにおけるスポーツ活動の実態調査	みよし市内に公園（三好池運動公園および保田ヶ池公園）にて、利用実態およびスポーツ活動が心理面に及ぼす影響を明らかにすることを目的としてアンケート調査を実施した。アンケートはGoogle formで作成し、タブレットから解答を依頼した。各調査地について3日間の調査日を設定し、午前7時から午後7時までの時間で利用者に対する声かけを行いアンケートへの回答を依頼した。回答結果から、敷地面積が広く周回コースの距離が長い三好池運動公園では、より広い範囲から利用者が集う傾向にあること、さらに、その多くが四季折々の自然との接点を求めて公園利用をおこなっていることが明らかになった。一方で、小規模であり周回コースの距離が短い保田ヶ池公園は、近隣住民の利用が多く、健康の維持増進などを目的とした利用が多いことが明らかになった。次年度において分析結果をみよし市に報告する予定である。	複数開催 11月1日 11月2日 11月4日 11月5日 11月8日 11月9日 11月12日	三好池運動公園および保田ヶ池公園	教員1名 学生10名	5. その他	授業外

33	サッカー審判員の試合中の生理 応答の測定およびフィードバック	東海学生サッカー連盟の審判部の協力を受け、所属 する審判員を対象として試合中の生理応答の測定 を行なった。対象者には、心拍計、スマートウォッチ、 簡易深部体温センサーを装着してもらい、試合中の 移動速度、移動距離、心拍数、および深部体温を 連続して計測した。また、試合前、前半終了後、後 半開始前、後半終了後に体重計測を行い、体重変 化を記録した。さらに、測定中の飲食物の品目および 重量を記録した。測定の結果から、地方大学リーグ に所属する審判員の移動距離は、国内トップリーグや 海外トップリーグの審判員と同等であることが確認され た。また、外気温25度程度の環境下において、深部 体温が39度付近まで上昇していることが明らかになっ た。測定結果は、審判部の研修会にてフィードバック を行なった。	複数開催 9月30日 10月1日	東海学園大学サッ カーグラウンド 岐阜聖徳大学サッ カーグラウンド	教員 1 名 学生 2 名	2. 企業・各種団体との連携	授業外
34	スポーツ科学体験イベント	2023年度専門基礎演習Ⅱ（白井）を履修した学 生が中心となりスポーツ科学体験イベントを企画運営 した。対象者はみよし市カヌー協会に所属する中学 生および高校生であり、90分間のイベントを通して 1）筋肉が収縮する仕組み、2）筋肉を収縮する 電気信号の測定、3）発揮した力を電気信号の関 係、4）カヌーを漕いでいる時の電気信号の観察を 行なった。学生が講義資料を作成し、当日は講師を 務めた。	2月17日	三好池カヌーセン ター	教員 1 名 学生 13 名	2. 企業・各種団体との連携	授業

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参 学 内 加 者	種 別	活 動
1	軟らかく飲み込みやすい料理を知ろう ～高齢期もはつらつ元気に～	嚥む力や飲み込む力が落ちてきた方の食事作りについて、高齢者の生理的特徴、低栄養の現状、嚥下の仕組み、食材別の料理のとりまの段階など、基本知識をもとに市販のとりま剤の違いを体験する。溶解させる液体の違いによってとりまの程度や飲み込みやすさなどが異なることを知り、個人への対応の仕方を学ぶ。コンビニ食材や缶詰、瓶詰めなど、市販の総菜や加工食品を利用したレシピを紹介し、簡単にできる工夫を伝え、実際に調理実習を行い理解する。各班で、料理を分担し出来上がった料理を持ち寄り、1つの食事に完成させる。試食し、とりま具合や飲み込みやすさなどを確認する。 講義・調理実習	6月24日（土）	調理実習室	教員5名 学生6名 参加者20名	4. 公開講座・イベント	授業外
2	親子で野菜をたくさん食べよう！イベント	野菜についての紙芝居の上映や、季節の野菜の切り口を利用し、絵の具をつけてスタンプにし、野菜の形や色、硬さなどを体験する。野菜のイラストを描きそれを缶バッジに加工し、野菜を身近な存在として感じてもらう。野菜にまつわるクイズを実施し、楽しみながら学ぶ。 野菜の成長する姿や植物としてどの部分を食べるのかなど、動画やスライドを使って、ワークシートを用いながら理解を深める。学んだ野菜を使って、ピクルス作りを行い野菜の色や形、食感を味わうことで、野菜の栄養や必要性について関心を持ってもらう。 参加型イベント（東学シアター、野菜スタンプ、缶バッジ作成、野菜ポスター展示、野菜レシビリーフレット配布）や野菜ピクルス作り体験の調理実習	8月5日（土）	講義室・調理実践指導室	教員6名 学生28名 参加者64名	4. 公開講座・イベント	授業外
3	水の環境について知ろう！	地球に存在する水は、身近なもので例えたらどのくらいの量があり、その中で実際に利用して飲むことのできる水はどのくらいあるのかを実感してもらう。貴重な水をきれいにするための方法として、下水道処理施設があり、汚れた水をどのようにきれにするのか仕組みを学ぶ。普段の食事で流してしまう食材（米のとぎ汁、ジュースなど）を使って、汚れの度合い、環境に及ぼす影響につて、実験を行う。私たちができる水を汚さない工夫の紹介をし、ペットボトルを使ったトルネード実験をする。トイレトペーパーとティッシュペーパーとの違い、下水道施設への影響について理解を深める。 参加型イベント 水環境の講話と実験（水の汚れチェック体験、トイレトペーパーのトルネード実験）	8月5日（土）	調理実習室		4. 公開講座・イベント	授業外
4	親子で野菜をたくさん食べよう！イベント	野菜についての紙芝居の上映や、季節の野菜の切り口を利用し、絵の具をつけてスタンプにし、野菜の形や色、硬さなどを体験する。野菜のイラストを描きそれを缶バッジに加工し、野菜を身近な存在として感じてもらう。野菜にまつわるクイズを実施し、楽しみながら学ぶ。壁に大きな用紙を用意し、ハロウィンや野菜などを書いた紙を貼り、来場者が一つの作品を作り上げる。 参加型イベント（東学シアター、野菜スタンプ、缶バッジ作成、野菜ポスター展示、野菜レシビリーフレット配布）	10月29日（日）	講義室	教員6名 学生20名 参加者315名	4. 公開講座・イベント	授業外

5	発酵食品のパワーとみそ作り体験	大豆製品を中心とする発酵食品であるみそについてくわしく解説する。みその原材料、製造工程、種類、塩分濃度と熟成期間の関係、日本全国のみその紹介や味噌に含まれる栄養成分の特徴や機能性など、味噌に関する幅広い知識を伝える。 実習では、イチビキ株式会社様による味噌作りの実習を行う。米麴に塩を加え、混ぜたのち、大豆を煮てミンチ状にしたもの、水、酵母液を加える。初めは下から上へ混ぜていき、その後は、力を入れてハンバーグをこねるように均一に混ぜることを説明する。出来上がりは、熟成をへて3か月後が食べ頃であり、みその魅力について再発見をしてもらう。 イチビキ株式会社様との連携講座 発酵食品の魅力やみそ作りを体験 講義・調理実習	11月11日（土）	講義室・調理実習室	教員5名 学生6名 参加者23名	4. 公開講座・イベント	授業外
6	そばの機能性とそば打ちを楽しむ	そばの生産量、原産地、栽培、そば粉の種類などのそばの基礎知識や栄養成分についての話を伝える。栄養成分では、他の穀類に比べて、アミノ酸スコアが高く、ビタミンB1、食物繊維、高血圧予防作用のルチンが多く含まれていること、ビタミンB1はそばをゆでるとゆで汁中に溶け出るので、そばがきや、そば湯を利用するのがよいなど、栄養的な知見もふまえながら解説する。そば打ちの実習では、初心者向けで、扱いやすいようにそば粉と小麦粉を7:3の割合で混ぜた粉を使用し、3回に分けて水を入れてよく混ぜ、生地をまとめ麺状に切るためのコツを説明する。試食し、そばの香りや食感を味わい、理解を深める。 講義・調理実習	11月25日（土）	調理実習室	教員4名 学生5名 参加者14名	4. 公開講座・イベント	授業外
7	勝つための食事学	アスリートにとって食事の意味は、コンディショニングの一部で、戦略、技術の前の根底に位置すること話し、競技にあわせた体重・骨格筋・体脂肪の増減が重要であることを伝える。スポーツのための特別な食事ではなく、主食、主菜、副菜、乳製品、果物の基本的な食事が基となり、競技種目、ポジション、年齢、個々の目的に応じた補食を加えることで、良いパフォーマンスへつながることを話す。各年代で身につけたい食事方法を学び、スポーツのことだけでなく、自分自身の健康管理についても考えることのできる内容とし、スポーツ栄養について興味を持ってもらう。	10月7日（土）	講義室	教員4名 参加者135名	4. 公開講座・イベント	授業
8	スポーツ栄養入門 健康チェック	学園祭来場者の骨密度と体組成を測定し、教員や学生が測定結果をもとにして、食事内容や生活習慣を聞き取り、栄養相談や健康相談を行う。得られた結果から、栄養上の問題点などへの気づきを促し、自らの問題点を理解し、変容を進める。参加した学生が一般参加者と触れ合うことで、どのような栄養相談や健康相談のアプローチをしたらよいかなど、実体験を通して、伝えることの手法を学び、将来に役立てられるようにする。 参加型イベント 体組成測定、骨密度測定などによる健康・体力チェック体験	10月29日（日）	スポーツ実践指導室	教員4名 学生4名 参加者130名	4. 公開講座・イベント	授業外
9	食とメディアデザイン ～フォトジェニックなスイーツ編～ 画像で“美味しさ”は伝わるか？	愛知県公立高等学校長会家庭部会 高大連携講座として、愛知県内にある家庭に関する学科で学ぶ15校の高校生を対象に本学の魅力について、アピールする。「食とメディアデザイン」の授業で行う食の情報発信をテーマにし、SNSなどで撮影した料理写真をアップロードする想定で行う。料理撮影の光の当て方、料理の配置、写真のとり方、パフェの由来、パフェの盛り付け方のコツなどを説明する。実際の食材料を用いし、参加者がパフェの盛り付けをする。盛り付けたパフェをSNSで興味や関心を引き付けるための写真撮影を行った写真を共有して、評価する。 講義・調理実習、撮影	8月21日（月）	調理実践指導室	教員4名 学生7名 参加者11名	3. 他学との連携、高大接続	授業外

10	第19回あさひ健康フェスタ	尾張旭市城内公園内スカイワードあさひにて、「とうがく健康測定」やスタンプラリーを実施した。 とうがく健康測定では骨密度測定、足指筋力測定およびヘモグロビン測定を実施し162名の方に参加いただいた。 スカイワードあさひ会場スタンプラリーでは、とうがくカレーおよびイチビキ共同開発製品を参加記念品として提供し、約700名の方に参加いただいた。 4会場（スカイワードあさひ、グリーンシティケールテレビ、イトーヨーカドー尾張旭店、尾張旭市文化会館）におけるスタンプラリーでは、いちびき共同開発商品を抽選商品として提供した。	4月29日（土・祝）	スカイワードアサヒ	教員4名 学生11名 参加者162名	2.企業・各種団体との連携	授業外
11	SDGs将来世代創造フォーラム2023	名古屋中小企業振興会館吹上ホールで開催される【SDGs将来世代創造フォーラム】にてブースを出展した。内容は「とうがく健康測定」やSDGs関連の展示を実施した。 とうがく健康測定では、骨密度測定、InBody測定を実施した。 SDGs関連の展示では、本学部の紹介を含めて企業とのコラボ商品等の展示を行った。	8月23日（水）	名古屋市中 小企業 復興会館吹上 ホール	教員4名 学生14名 参加者250名（骨密度測定: 131名、InBody測定: 119名）	2.企業・各種団体との連携	授業外
12	天白区民まつり	地域住民との交流を深めることを目的として健康栄養学部で本イベントに参加した。イベントには教員4名とボランティア学生7名が参加し、会場内にブースを設けた。来場者に骨密度測定とその結果を説明し、骨密度の低い方には骨を丈夫にするために栄養素についての簡単な栄養指導リーフレットを配布して実施した。また、食・栄養に関するクイズを無償で実施し、参加者には景品を提供した。新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていたが、4年ぶりの天白区民まつりの開催で天候もよかったこともありイベントが大盛況の中、約200名もの参加者にブースを訪れていただいた。	10月21日（土）	天白公園	教員4名 学生7名 参加者200名	1.自治体との連携	授業外
13	みんなの元気フェスタinてんばく2023	天白区内の地域包括ケアを推進するため、介護・福祉・医療に関する情報を地域住民の方に提供し、多職種連携や世代間交流を図ることを目的として、毎年1回開催されている「元気フェスタinてんばく2023」に参加した。 てんばく区訪問看護ネットに所属する看護師さんたちと一緒に「健康チェック」に参加したり、天白区マスコットキャラクターの「かぼち」・名古屋市公式マスコットキャラクターの「はち丸」の着ぐるみに入って、子供たちとの写真撮影に応じたりした。 幅広い年代の方々との関わりを通して、今を明るく生きる大切さを実感していた。	11月18日（土）	天白区役所講堂・保健センター2階	教員1名 助手2名 学生12名 参加者470名	1.自治体との連携	授業
14	令和5年度名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2023	オアシス21 銀河の広場で、令和5年度名古屋市消費生活フェア「なごやエシカルフェア☆2023」が開催された。知っておきたい身近な知識から、地球の未来を考えるSDGsまで、ステージやブースで消費生活について、楽しく学べるイベントであった。 事前に大学生の野菜摂取状況調査をした内容の紹介や、名古屋市健康福祉局健康部健康増進課食育担当の方々や野菜摂取を増やしていただくための健康レシピの紹介や野菜をとっていただくためのアンケート、エシカル消費ポスターやすごろくを紹介をした。幅広い年代の方々との交流で多くのことを体験した。	11月18日（土）	オアシス21 銀河の広場	教員1名 学生6名 来場者8000名	1.自治体との連携	授業
15	天白区役所共催「八事五寸にんじんレシピコンテスト」	天白区特産の「八事五寸にんじん」の認知度を高め、都市部の農業に関心を持ってもらう事を目的に開催された。	2月9日	東海学園大学	教員6名 学生13名	1.自治体との連携	授業外
16	日本ゼネラルフード株式会社産学連携	2年生を対象に、「地球にやさしくアイデアメニューコンテスト」を実施して、入賞、佳作のレシピを実際の事業所給食において販売を行った。	11月15日	日本ゼネラルフード株式会社本社食堂	学生2名	2.企業・各種団体との連携	授業外

17	株式会社名給産学連携	「名給フードネットワーク2024」の展示会において、徳永ゼミ生が考案した料理の展示を行った。学生は、展示会場において来場者に料理のポイント等の説明を行った。	3月13日	名古屋国際会議場	学生7名	2.企業・各種団体との連携	授業外
18	子ども食堂	NPO法人ほほえみ主催の「子ども食堂」に調理補助、子供の遊び相手等の活動を行った。	5月～3月(6回実施)	コミュニティほほえみ	学生15名	2.企業・各種団体との連携	授業外
19	第1回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした体験を通した「学びの体験講座」を実施して、東海学園大学の魅力を発信した。参加者44名であった。	5月20日	東海学園大学	教員・助手9名 学生7名	4. 公開講座・イベント	授業外
20	第2回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした体験を通した「学びの体験講座」を実施して、東海学園大学の魅力を発信した。参加者31名であった。	9月9日	東海学園大学	教員・助手7名 学生9名	4. 公開講座・イベント	授業外
21	第3回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした体験を通した「学びの体験講座」を実施して、東海学園大学の魅力を発信した。参加者12名であった。	12月2日	東海学園大学	教員・助手7名 学生7名	4. 公開講座・イベント	授業外
22	高校生バス見学	高校生に、東海学園大学の魅力を知ってもらうための企画であり、給食マネジメント実習で実施した献立を学生ボランティアの協力の元実施した。参加者は7名であった。	3月26日	東海学園大学	教員・助手5名 学生7名	4. 公開講座・イベント	授業外
23	スポーツ栄養サポート	スポーツ栄養サポートコースにおいては、Runup Academy所属の小中高高校生に対して年4回の身体計測および個人面談によるサポート、年2回の栄養セミナーを実施した。また、食育を兼ねた試食会や調理実習を実施した。	4月～3月(6回実施)	東海学園大学	教員・助手2名 学生28名 参加者147名	2.企業・各種団体との連携	授業外

令和 5 年度地域連携支援プログラム報告書

発行：東海学園大学

発行年月：令和 6 年 5 月

名古屋キャンパス

住所：〒468-8514 名古屋市天白区中平二丁目 901 番地

TEL：(052)801-1201 FAX：(052)804-1044

三好キャンパス

住所：〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞 21 番地 233

TEL：(0561)36-5555 FAX：(0561)36-6757